

Cisco Identity Services Engine の RADIUS におけるサービス拒否の脆弱性



Advisory ID : cisco-sa-ise-RADIUS-dos-wR3hYPMw

[CVE-2026-20352](#)

初公開日 : 2026-09-16 16:00

バージョン 1.0 : Final

CVSSスコア : [8.6](#)

回避策 : No workarounds available

Cisco Bug ID : [CSCwv82115](#)

日本語の情報は原文の英語の非公式な翻訳です。日本語と英語のバージョンに相違がある場合は、英語のバージョンが優先されます。

概要

Cisco Identity Services Engine(ISE)のRADIUS機能の脆弱性により、認証されていないリモートの攻撃者が該当デバイスにサービス妨害(DoS)状態を引き起こす可能性があります。

この脆弱性は、特定の RADIUS 要求の処理が不適切であることに起因します。攻撃者は、巧妙に細工されたRADIUS要求を該当デバイスに直接送信することにより、この脆弱性を不正利用する可能性があります。エクスプロイトに成功すると、攻撃者はISEノードを使用不能にできる可能性があります。この状態のシングルノード導入では、まだ認証されていないエンドポイントは、ノードが自動的に復帰するまでネットワークにアクセスできません。

シスコはこの脆弱性に対処するソフトウェアアップデートをリリースしています。この脆弱性に対処する回避策はありません。

このアドバイザリは、次のリンクより確認できます。

<https://sec.cloudapps.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-ise-RADIUS-dos-wR3hYPMw>

このアドバイザリは、アドバイザリグループの一部です。これらのアドバイザリとリンクの一覧については、[2026年9月16日発行のCisco Advance Notification, Security Advisories](#)を参照してください。さらに、Cisco Identity Services Engineの改善と修正についてのその他のドキュメントについては、『[Cisco Identity Services Engineセキュリティ強化リリース：2026年9月](#)』を参照してください。

該当製品

脆弱性がある製品

Cisco ISEポリシーサービスノード(PSN)でRADIUSサービスが有効になっている場合、この脆弱性の影響を受けます。

注：RADIUS サービスはデフォルトで有効になっています。

Cisco ISEがTACACS+でのみ使用されている場合、セッションサービスをオフにしない限り、ネットワークデバイスはこの脆弱性の影響を受けます。注意：RADIUS展開のセッションサービスは、すべてのRADIUSサービスを無効にするので、無効にしないでください。

脆弱性が存在する Cisco ソフトウェアリリースについては、このアドバイザリの[修正済みソフトウェア](#)セクションを参照してください。

PSNおよびセッションサービス設定の決定

Cisco ISE 展開内のノードが PSN であるかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

1. Cisco ISE の Web ベースの管理インターフェイスにログインします。
2. メニューアイコンをクリックします。
3. Administration > System > Deployment > Deploymentの順に選択します。
4. General Settingsタブの下を確認します。
5. Policy Serviceセクションを確認します。
 - スライダが有効になっている場合、ノードはこの脆弱性の影響を受ける可能性があります。ステップ 6 に進みます。
 - スライダが有効になっていない場合、ノードはこの脆弱性の影響を受けません。
6. Enable Session Servicesチェックボックスにチェックマークを入れます。
 - このボックスがチェックされている(Session Services enabled)場合、ノードはこの脆弱性の影響を受けます。
 - このチェックボックスがオフになっている (Session Servicesが無効になっている) 場合、ノードはこの脆弱性の影響を受けません。注意：RADIUSノードのセッションサービスは無効にしないでください。TACACS+専用ノードに対しては無効にできません。

展開内のすべてのノードを個別にチェックする必要があります。

脆弱性を含んでいないことが確認された製品

このアドバイザリの[脆弱性のある製品セクション](#)にリストされている製品だけがこの脆弱性の影響を受けることが知られています。

脆弱性が Cisco ISE Passive Identity Connector (ISE-PIC) に影響しないことはシスコで確認済みです。

回避策

この脆弱性に対処する回避策はありません。

修正済みソフトウェア

シスコでは、回避策や緩和策（該当する場合）は、修正済みソフトウェアリリースへのアップグレードが利用可能になるまでの一時的な解決策であると考えています。この脆弱性を修正し、本アドバイザリに記載されているような将来のリスクを回避するために、シスコでは、本アドバイザリに記載されている修正済みソフトウェアにアップグレードすることを強く推奨します。

修正済みリリース

次の表では、左の列にシスコ ソフトウェアリリースを記載しています。右側の列は、リリースがこのアドバイザリに記載されている脆弱性の影響を受けるかどうか、およびこの脆弱性に対する修正を含む最初のリリースを示しています。このセクションの表に記載されている適切な修正済みソフトウェアリリースにアップグレードすることをお勧めします。

Cisco ISEリリース	First Fixed Release (修正された最初のリリース)
3.1 以前	脆弱性なし
3.2	3.2 パッチ 11
3.3	3.3 パッチ 12
3.4	3.4 パッチ 7
3.5	3.5 パッチ 4

デバイスのアップグレード手順については、[Cisco Identity Services Engine](#) サポートページのアップグレードガイドを参照してください。

シスコの Product Security Incident Response Team (PSIRT; プロダクト セキュリティ インシデント レスポンス チーム) は、このアドバイザリに記載されている該当するリリース情報と修正済みリリース情報のみを検証します。

不正利用事例と公式発表

Cisco PSIRT では、本アドバイザリに記載されている脆弱性の不正利用事例やその公表は確認しておりません。

出典

この脆弱性は Cisco Technical Assistance Center (TAC) サポートケースの解決中に発見されました。

URL

<https://sec.cloudapps.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-ise-RADIUS-dos-wR3hYPMw>

改訂履歴

バージョン	説明	セクション	ステータス	日付
1.0	初回公開リリース	—	Final	2026年9月16日

利用規約

ソフトウェアのダウンロードおよびテクニカルサポート

Cisco.com の [シスコサポート & ダウンロード](#) ページには、ライセンスとダウンロードに関する情報が記載されています。このページには、マイデバイス (My Devices) ツールを使用するお客様のカスタマーデバイスサポート範囲も表示できます。お客様がソフトウェアをダウンロードできるのは、シスコから直接、あるいはシスコ認定再販業者やシスコ認定パートナーを通じて調達されたもので、ライセンスが有効なものに限ります。

シスコから直接購入したがシスコのサービス契約をご利用いただいていない場合、また、サードパーティベンダーから購入したが修正済みソフトウェアを購入先から入手できない場合は、[Cisco Technical Assistance Center \(TAC \)](#) に連絡してアップグレードを入手してください。無償アップグレードの対象製品であることを証明していただくために、製品のシリアル番号と、本アドバイザリの URL をご用意ください。

[ソフトウェアのアップグレードを検討する](#) 際には、関連するシスコ製品の [アドバイザリ](#) を定期的に参照して、侵害を受ける可能性とアップグレード ソリューション一式を確認してください。いずれの場合も、アップグレードするデバイスに十分なメモリがあること、および現在のハードウェアとソフトウェアの構成が新規リリースで引き続き正しくサポートされていることを十分に確認してください。不明な点については、Cisco Technical Assistance Center (TAC) もしくは契約しているメンテナンスプロバイダーにお問い合わせください。

利用規約の詳細

シスコは、商品適格性または特定目的への適合性に関する保証を含め、明示的か黙示的かを問わず、いかなる種類の保証も表明しません。前述の一般論に限定されることなく、シスコは、本情報の正確性または完全性を保証するものではありません。コンテンツは「現状のまま」提供されます。本アドバイザリの情報およびリンクの使用に関する責任の一切はそれらの使用者にあるものとします。また、シスコは本ドキュメントの内容を予告なしに変更したり、更新したりする権利を有します。

本セキュリティアドバイザリに含まれる情報のコピーや要約には、事実誤認を引き起こしたり、重要な情報が欠落していたりする可能性があります。本セキュリティアドバイザリの最新版については、[シスコ セキュリティ アドバイザリ](#) ページをご覧ください。Cisco Product Security Incident Response Team (PSIRT; プロダクト セキュリティ インシデント レスポンス チーム) は、このアドバイザリに記載されている該当するリリース情報と修正済みリリース情報のみを

評価します。詳細については、[シスコのセキュリティ脆弱性ポリシー](#)を参照してください。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。